



2021年9月28日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ第42号

建学の精神について

チャプレントマス 河村 博之

「すべてに耳を傾けて得た結論。「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。」
(コヘレトの言葉 12:13)

後期の授業が始まりました。皆さんは、どのような夏休みを過ごされましたか。さて、9月29日は本学の創立記念日です。この日は、教会の暦では聖ミカエルおよび諸天使の日にあたります。残念ながら、休日ではありません。

本学創立者ミカエル八代斌助主教は、1963年、垂水の地に高等学校を設立し、学校案内に「畏敬の精神」という表題で「八代学院には一つの精神が存在していると申し上げたい。それは教える者も、また学ぶ者も、共に一つの共通の理解の場がある。即ち、人間的に恐れるものは何もないということです。ただありますのは、上の人も下の人も、先生も生徒も、「神さまをおそれる」ということだけです。キリスト教のまことの心は、各人がそれぞれかけがえのない人格を与えられていることを知り、自分を大切にすることです。自分自身を大切にすることは、同時に、他の人に対する尊敬の念となってあらわれます。」と述べられています。

人を恐れるとき、尊敬の念はなくなります。ここ2年近く、わたしたちは新型コロナウイルスの影響を受けてきました。神さまを畏れるどころか、神を忘れ、人を恐れて右往左往する弱い姿が映し出されてきたのではないかと思います。おそらくしばらくは、この状態が続くでしょう。しかし、いつまでも続くわけではありません。必ず、収束の時を迎えます。その時改めて気づかされることは「神さまをおそれ(畏敬のおもいもちつつ)」過ごしているかどうかではないでしょうか。本学の建学の精神は、いつの時代にも通用する尊い、人生の指針を示すものだとすることを覚えておきましょう。



一口メモ

聖ミカエルは英語で“ST.MICHAEL” (セント・マイケル) と表されます。キャンパス内で ST.MICHAEL を見かけたことはありますか? 時間のある時に探してみてください。

新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り

どうか、皆さんもお時間があるときにお祈りください

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支さえください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン